

津西ハイタウン地区防災計画

津西ハイタウン自治会・自主防災会

津西ハイタウンのすがた

昭和62(1987)年 旧津市西部の丘陵地に造成された住宅団地

世帯数…720戸、人口…1,783人(2020年3月31日時点)
面積…約0.3km²、海抜(セントラルパーク基準)…21.6m

津西ハイタウンの防災力

【プラス面】

- ・津波、河川氾濫による洪水、大規模土砂災害の心配がない環境
- ・全戸が昭和56年の耐震基準に適合する住宅

【マイナス面】

- ・住民の高齢化が進展
- ・宅地造成による地盤の弱い部分がある
- ・自治会の歴史が浅く、地域の連帯感が希薄

※ハザードマップから ・南海トラフ地震想定震度≪6強≫ ・津波浸水地域≪対象外≫ ・洪水想定地域≪対象外≫ ・土砂災害(特別)警戒区域≪急傾斜地4か所≫

計画の基本方針

在宅(自宅)避難を基本とし、安否確認など共助による見守りを徹底します。(注)

在宅避難に耐えうる自助を促進します。

『顔の見える防災活動』を推進し、【地域の絆】を培います。

(注) ただし、自宅が崩壊し又は崩壊の危険があり、在宅が困難な場合は、指定避難所や友人・知人宅、マイカー内など最善な場所へ避難します。

活動目標

災害発生時の活動

- ・災害対策本部の設置 集会所に自治会長を本部長とする災害対策本部を設置して、自主防災活動を推進します。
- ・安否確認と被害実態の掌握 住民による「向こう三軒両隣」の安否確認を行い、その結果をブロック長・班長が集約して災害対策本部で被害実態を掌握します。
- ・災害時要支援者対策 ブロック長・班長が近隣住民と協力して、「災害時要支援者」の安全を確保します。
- ・災害発生時の支援 り災者(世帯)に対して、消火器による初期消火や負傷者の救出・救助と応急救護、その他被害の拡大防止についての支援活動を行います。

平常時の活動

- ・防災知識の普及・啓発活動 各種研修会や防災訓練を計画的に実施して、防災意識の醸成と防災に関する知識・技能の向上に努めます。
- ・共助の充実 ブロック単位の活動や「明寿会」、趣味のグループなどが主体となった『顔の見える防災活動』を推進して、住民相互の共助意識の醸成に努めます。
- ・防災情報の収集・活用 『助け合い住民台帳』や『災害時要支援者名簿』を作成して災害発生等に備えるほか、防災関連情報の収集・活用に努めます。
- ・防災資機材等の整備・保全 防災倉庫等に災害発生時に活用する資機材を備蓄し、常に使用できるよう点検・整備に努めます。
- ・各家庭における防災必需品の備蓄 防災必需品の共同購入を行うほか、食料品や日用品等の「ローリングストック」に心掛けるよう啓発します。
- ・各家庭における耐震対策 自宅の耐震診断や家具等の転倒防止対策、ガラス飛散防止対策等の地震対策に心掛けるよう啓発します。